

百年いきいき けんろふェスタ

日時 2023年2月26日(日) 10:30 - 15:30

場所 みなとがわホール
兵庫県神戸市兵庫区荒田町1丁目21-1

イベント情報

神戸百年記念病院の医師による講演

- ・ 整形外科
- ・ 循環器内科
- ・ 外科
- ・ 総合診療科（腎臓内科）

事前申込は
こちら

078-681-6250

※ 各講演の定員数には限りがあるため早めにお申し込みください

体験・相談コーナー

- ・ 血管年齢測定
- ・ マンモグラフィー検査
- ・ 体力チェック
- ・ 人間ドックのご案内（当日予約可能!）
- ・ もの忘れ相談
- ・ キッズ、一般向け体験

その他イベント準備中!!

Take Free

神戸百年記念病院の地域の皆さまに向けた広報誌

2023.02

vol.92

すこやか

KOBE CENTURY MEMORIAL HP Est. 1907



特集

認知症は
早期発見がポイント

神戸モデルを活用しよう!

■ 連携医療機関のご紹介「東山クリニック」
■ おすすめ情報「パールチツチャ」



医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院



0570-086100 FAX.078-681-6118

〒652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1 <http://www.kobe-century-mh.or.jp>



ごあいさつ“2023年を迎え”

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

世界中を覆うコロナ禍は昨年も消えることなく、社会にとってもまた大変な一年となってしまいました。ワクチンの普及、治療法の進歩などあって、今後は社会活動の復興と共に文字通りコロナと共存する新しい局面に入っていくと思われまます。しかし医療面では、コロナはその病原性ばかりではなく、従来の医療にも甚大な影響を及ぼす脅威であり続けます。当院では本年も引き続き万全の感染症対策を講じて患者さまの安全確保に尽くしてまいります。と同時に、病院機能はその歩みを止めることなく進化を続けます。

「地域になくてはならない病院になる」という病院理念に賛同し、去年は多くの医師が全国から参集してくれました。各診療科、医療センターの経験豊富な専門家が、未病の段階から高度な診断と治療そして社会復帰に至るまで、いつも地域の方々に寄り添い、信頼され、満足される医療提供体制を強化してまいります。“健康に関わるすべてが神戸百年記念病院にある”と、皆様に思っていただけよう、職員一同、今年も全力で努力を続けてまいりますことをここにお願いいたします。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



理事長
田中 岳史

旧年中は大変お世話になりました。

昨年も前年から続く新型コロナウイルスに対する感染対策を講じながらの医療提供が求められ、厳しい一年となりました。その中でも、地域の二次救急指定病院としての役割を果たすために、発熱有症状の患者さまの診療を継続しながら、二次救急指定病院の使命でもある救急医療の体制も質を落とすことなく継続してまいりました。本年も地域の救急隊や医療機関と連携して、地域の皆さまが安心して暮らせるように医療の提供をしてまいります。

また、去年は第2回『100年いきいきフェスタ』を3年ぶりに開催をしました。兵庫消防署さま、兵庫警察署さまをはじめ、イベントに出演、出店いただきました皆さまにも支えられ、大盛況のうち無事に開催をすることができました。地域の皆さまと診療以外の機会であう貴重な時間をいただき、また皆さまと笑顔で交流できたことは職員一同大きな力となりました。誠にありがとうございました。

3月1日からは、『訪問看護ステーションすこやか』が開設します。コロナ禍でさらに在宅医療の必要性は高まっている中、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるようにサポートをしていきたいと思ひます。

本年も「地域になくてはならない病院になる」という理念のもと、医療を通して皆さまの健康を支えられるよう職員一同取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



院長
朝田 尚宏

日常生活にさまざまな支障をきたす認知症。高齢化の進行とともに認知症が増えるなか、認知症になっても日常生活を安心して送ることができる社会を目指すことが重要となっています。

神戸百年記念病院では、2017年1月に神戸市から認可を受け、精神科に「認知症疾患医療センター」を設置しています。認知症疾患医療センターの役割と神戸モデルについて精神科 井上 和洋 医師にお話を伺いました。

約5人に1人(65歳以上)は、認知症に!?

認知症は、脳の病気や障害などさまざまな原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。

日本における65歳以上の認知症の人の数は、2025年になると約700万人(高齢者の約5人に1人)と予測されており、高齢化社会の日本では認知症に向けた取り組みが今後ますます重要になっています。

神戸市の取り組みは?

神戸市は、認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりを推進するため、65歳以上の市民を対象に早期受診を支援する「認知症診断助成制度」と、認知症と診断された方が受けられる「認知症事故救済制度」を組み合わせた「神戸モデル」を実施しています。



井上先生、精神科の医師になられた経緯についてお聞かせください!

Q 精神科に進んだきっかけを教えてください?

A 神戸大学医学部の学生の頃から、統合失調症を専門にしたいと考えておりました。また、大学に高名な先生方がおられたことも影響しております。

Q なぜ統合失調症を専門にしたいと思われたのですか?

A 統合失調症は不思議な病気です。幻聴が聞こえてきて被害妄想が見られる、そして多くのケースでは、次第に周囲から孤立していき社会的弱者になってしまいます。そのような方々を救ってあげたい、よくしてあげたいという思いと純粋にこの病気に興味があったからです。

Q 大学卒業後は?

A 大学卒業後、初期臨床研修先として大学病院の精神科へ行くと決めていましたが、大学病院だとプライマリな病気を診察できないので、総合病院である高槻病院で2年間経験を積みました。

Q 精神科の専門性を高めるためにどのようにされましたか?

A 精神科には、厚生労働省の精神保健指定医という資格があります。精神保健指定医の資格を取得するには、5年以上の臨床経験(うち3年は精神障害の診断・治療)、研修受講、レポートの提出、口頭試問などを経る必要があります。この資格を取得するために、短期間で多くの臨床経験を積むことができる精神科の救急へ進みました。

Q 精神科の救急とはどのような患者さんが来られるのですか?

A 精神的な混乱や不合理な言動・行動など、警察に連れられてくる方が多かったです。

Q 統合失調症の患者さんを診療するようになっていかがでしたか?

A 統合失調症は、会話が成立しない、幻覚、被害妄想など支離滅裂だった方がすっかりよくなって退院していくので、診療は大変ですが充実感があります。

Q 認知症の患者さんの診療を始めたきっかけは何ですか?

A 過去に勤務した病院で、認知症病棟及び外来を担当したことがきっかけです。患者さん自身の住み慣れた場所で今後も生活を続けられるよう、診療と支援の連携を円滑に進めていくことに力を入れてきました。

認知症疾患医療センター 認知症は早期発見がポイント

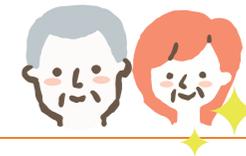
神戸モデルを活用しよう!

神戸百年記念病院(認知症疾患医療センター)は、神戸市指定の認知症に関する専門医療機関です。



医師・公認心理師・精神保健福祉士が協力して患者さんを支援します!

神戸モデル2つの安心制度



認知症診断助成制度

- 認知機能検診
- 認知機能精密検査

認知症事故救済制度

- 賠償責任保険への加入
- 事故救済制度専用コールセンターの利用
- GPS かけつけサービスへの登録
- 見舞金(給付金)制度

※詳しくは神戸市の神戸モデルのサイトをご覧ください。

予防・早期介入していこう!!

昔は、認知症の症状が悪化してから、患者さんのご家族が手に負えなくなり医療機関へ受診していたため、認知症が進行してしまっているケースが多く見受けられました。現代では、極力そのようなケースを避けるため、まち全体で「予防及び早期介入」の取り組みを行っています。神戸モデルも「予防及び早期介入」が施策のひとつとなっています。

認知症になっても希望を持って生活できる

神戸モデルの良い面は、認知症の早期発見と経済的負担の軽減です。

早期に診断をすることで、適切な介護サービスや社会的理解が得られる上、早期に治療を開始することで、進行を遅らせたり、症状を緩和させる可能性があります。

Q これまでのご経験を当センターでどのように発揮されていますか?

A 認知症疾患医療センターでは、認知症を主体に診療を行なっています。認知症で入院すると自宅に戻れないイメージがありますが、それは間違いです。以前在籍していた京都府立の精神科専門病院は、患者さんをなんとか退院させてあげようと、行政などにも働きかけて認知症をまち全体でケアしていく活動をされていました。その活動により、おそらく京都府宇治市は日本でもトップの「認知症に強いまち」になっていると思います。神戸市においても、認知症の人にやさしいまちづくり「神戸モデル」があります。この取り組みと共に当院でも認知症の患者さんが安心して暮らせるようにサポートしていきたいです。

認知症診断助成制度の流れ



神戸百年記念病院

Kobe Century Memorial Hospital

神戸モデル

Kobe City

認知症の専門医がいる

第1段階 では、まずお話を聞いて、これまでにかった病気やどのような経緯で受診されたか、また、記憶力、判断力や会話能力など、何ができていないかを答え合わせします。



第2段階 では、画像検査や採血などを行います。認知症の診断を行い、日常生活の状況や、他の疾患の状況等も踏まえて、総合的に評価を行うとともに、関係機関との情報の共有化を図り、医療、福祉、介護の支援に結び付けていきます。患者さんのご家族に介護保険の申請や「あんしんすこやかセンター」でどのような手続きを行えばよいかなどを説明して、必要であれば、当院で主治医意見書を書きます。なお、基本的にかかりつけ医にてフォローとなりますが、当認知症疾患医療センターでも経過観察等を引き続き行います。



※てんかんとう頭症の診断については、脳外科のある病院へご紹介いたします。

「認知症」で受診することは、ハードルが高いように思われがちですが、神戸市からの受診券が届くことで受診のきっかけにもなります。認知症という病気を普段気にしていない方でも、気軽に受けられますし、ご家族に「1回試しに受けてみたら」と勧めやすいのも特徴です。

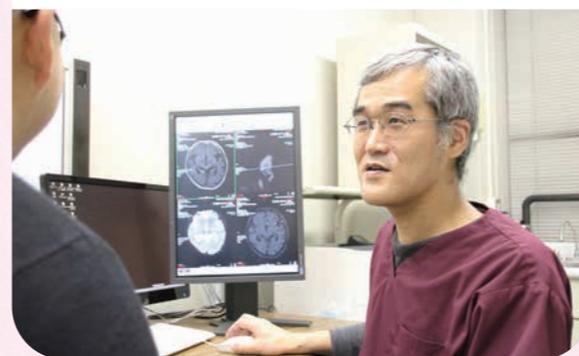
神戸百年記念病院 認知症疾患医療センターの強み

1 認知症の専門医が在籍

センター長である井上医師は、「日本精神神経学会精神科専門医・指導医」と「日本認知症学会専門医・指導医」を取得していますので、専門的かつ正確な診断・治療ができます。

2 神戸モデルの第2段階も実施している医療機関

当センターは、神戸市から認可を受け、第1段階(認知機能検診)、第2段階(認知機能精密検査)、どちらも対応しています。



啓蒙活動で認知症の有病率を低下させる

イギリスでは「認知症にやさしいまちづくり」の啓蒙活動が広がり、定着しています。認知症を持つご本人やご家族、行政、医療関係者だけでなく、地元企業、教育機関、公共施設など幅広い組織が参画し、認知症を持つ人の視点から物事を考えたり、協働でプロジェクトを実施したりしています。この啓蒙活動により、以前と比べて、症状が進んだ重度の患者さんを診断する数が減っているそうです。

国内でも、私が在籍していた京都の病院では、認知症疾患医療センターを平成23年から設立し、設立当初と比べて入院が減っています。啓蒙活動など認知症の早期発見に力を入れている病院は、年々相談件数は増えるけれども、入院は減っていきます。それは、初診時、MMSE(ミニメンタルステート検査:心理検査)の点数が高い状態で受診される方の割合が増えているからです。



認知症施策推進大綱

日本では1980年代以降に認知症への施策が本格化し、オレンジプラン(2012年)⇒新オレンジプラン(2015年)⇒認知症施策推進大綱(2019年)と変革しています。認知症施策推進大綱の基本的な考え方は、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人やご家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推し進めることにあります。

当院においても、認知症に対して早いうちからアプローチすることで、住み慣れた地域で安心して過ごしていただける体制を目指しています。

次ページは認知症疾患医療センターの役割

■鑑別診断とそれに基づく初期対応

認知症疾患医療センターでは、認知症の診断を行い、日常生活の状況や、他の身体疾患等の状況等も踏まえ、総合的に評価を行うとともに、関係機関との情報の共有化を図り、医療、福祉、介護の支援に結び付けていきます。

■行動・心理症状と身体合併症への急性期対応

認知症の身体合併症や周辺症状の治療について、認知症疾患医療センターで受け入れるほか、地域の医療機関と緊密な連携を図り、地域全体で受け入れる体制をつくっていきます。

■専門医療相談

認知症疾患医療センターには、専門医療相談部門を設置し、認知症に関する専門知識を有する精神保健福祉士等を配置しています。この専門医療相談部門では、本人、家族、関係機関（地域包

括支援センター、区役所、保健所・保健センター、介護保険事業所）から認知症に関する医療相談に対応するとともに、状況に応じて、適切な医療機関等の紹介を行います。

■情報収集・提供

認知症に関する正しい知識をご理解いただくための情報発信を行います。ホームページの他、パンフレット等でも認知症疾患医療センターの情報発信をいたします。地域の医療機関、地域包括支援センター、区役所、保健所・保健センター等の関係機関、家族介護者の会との連携を図るため、認知症連携協議会等を開催し、地域において関係者が密接に連携するネットワークづくりに向けた検討を行ってまいります。

■かかりつけ医等、医療・介護従事者等への研修の開催

認知症疾患医療センターの院内においては、専門的な知識・経験を有する医師・看護師の育成に努めていくとともに、地域においては、かかりつけ医などの医療従事者や介護・福祉関係者の認知症対応力の向上を図るための研修等に取り組んでいきます。

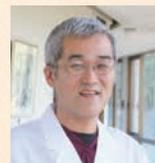
診療の流れ



担当医師

精神科
認知症疾患医療センター
センター長

井上 和洋
Kazuhiro Inoue



神戸大学医学部医学科卒業

資格等

精神保健指定医
日本精神神経学会精神科専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医
認知症サポート医
緩和ケア研修会修了



外来担当医表

	月	火	水	木	金	土
午前 8:00~ 11:45	井上 和洋	井上 和洋	青山 慎介 第1週休診	井上 和洋	井上 和洋	谷藤 貴紀 第1,3,5週 休診
午後 13:00~ 15:30	井上 和洋	井上 和洋	青山 慎介 第1,4週休診	井上 和洋	井上 和洋	金田 明子

認知症外来は完全予約制です。予約調整でご希望に添えない場合がございます。詳しくは、認知症疾患医療センター直通電話(078-681-5551)までご相談下さい。

INFORMATION

神戸百年記念病院 認知症疾患医療センター主催
令和4年度

第3回 メモリーサロン開催

認知症かなと思ったら
~受診の大切さ~

申込締切

3/2(木)

知っておくことで今後役に立つ、認知症やその予防についての知識、受診の大切さを、認知症専門医の前田潔医師がお話しさせていただきます。講演後の質疑応答では、認知症関連で気になることやお困りのことなど、何なりとお聞かせください。

2023.3.11

14:00
15:00
土



講師
認知症疾患医療センター
精神科医
神戸大学名誉教授
神戸市シルバーカレッジ学長
前田 潔 医師

神戸百年記念病院 本館1階ホール

神戸市兵庫区御崎町1-9-1

最寄駅 市営地下鉄海岸線「御崎公園駅」下車 徒歩7分

予約制（20名限定）

予約申込先

神戸百年記念病院
認知症疾患医療センター

☎ 078-681-5551 月~金(祝日のそく)
9:00~17:00

メモリーサロン動画配信中

認知症についての動画が
当院ホームページにあります。
ぜひご覧ください。



講座テーマ

- 第1回 認知症について/アルツハイマー型認知症 脳血管性認知症/レビー小体型認知症
- 第2回 前倒側頭葉変性症について/MCIと予防
- 第3回 知っておきたい脳と体を使う運動

<https://www.kobe-century-mh.or.jp/dept/ninchishoushikkanniryou-center/>



当院では、地域の医療機関(かかりつけ医)との協力体制を強化し、地域全体として患者さまにより質の高い医療を提供していくことを目的に「連携登録医制度」を制定しています。ここでは、常日頃よりご協力をいただいている連携医療機関の紹介をしていきます。

今回は、神戸市兵庫区の東山クリニック、^{きょう しんこう}姜 臣 鎬 院長にお話を伺いました。

東山クリニック



所在地	神戸市兵庫区東山町3-1-8 東山ハイツ2階
電話	078-531-0227
診療科目	内科・循環器内科・リハビリテーション科
診療時間	午前9:00~13:00 午後16:00~18:30
休診日	木曜日・土曜日の午後、日曜日・祝日



高齢患者さんが増えているからこそ、「疾病予防」に重きをおいた診療を

当院は8年前に、私の父から引き継ぐ形で内科、循環器内科、リハビリテーション科として再出発をしました。私自身の専門は循環器内科なのですが、父の代の整形外科の機能もリハビリテーション科として、物理療法を中心とした治療を継続しています。内科では日々の不調に加え、高血圧、糖尿、脂質異常といった生活習慣病の診療が多くなっています。当院で重篤な病状の方を診ることはほとんどありませんが、そうならないようかき予防していくかが重要だと考えています。また診察の際は、特に年配の患者さんに対して重ねられた年月に敬意を払い尊重することを心に留め、丁寧にコミュニケーションを取ることを心がけています。

当院は認知症神戸モデルの第1段階／認知機能検診の実施機関にもなっています。私がクリニックを引き継いだ頃と比べ、認知症疑いの方が増えている印象があり、「もしかして」と感じられた方にとって自己負担なしで受診できるハードルの低さはとても良いことだと感

じています。また、医師の口からいきなり疑いがあることを告げるのはとても難しいものですから、「神戸モデル」の仕組みには助けられている部分もあります。検診の結果、精密検査が必要なケースは神戸百年記念病院へ紹介することが多いのですが、検査のみならず治療やフォローアップもしっかり対応してくれるので、とても安心感を持っています。今後も互いに連携し地域のみなさんの健康・医療の一助になればと思っています。



神戸百年記念病院から

姜先生にお会いして最初に感じたのは、言葉を選びながらお話される、優しさと穏やかさです。取材の際も、ご高齢の患者さまが来院されていましたが、患者さまとご家族のお話に耳を傾けて、丁寧に対応をされているのが印象的でした。紹介いただいた認知症2次検査の結果のレポート内容についても、お褒めの言葉をいただき、当院関係者も大変嬉しく思いました。今後もより一層お役に立てるように取り組んでまいります。

連携登録医をご希望される医療機関様へ

「連携登録医 登録申込書」をご用意しております。ご希望の場合は、地域医療総合支援センター(☎078-681-6250)までご連絡ください。

地域とつながるヒャクネンの活動

神戸市婦人団体協議会 様 主催 あじさい講座

開催日時 2022年12月23日(金) 開催場所 神戸市立婦人会館

『健康で元気に100歳を目指す』をテーマに開催される神戸市婦人団体協議会様が主催される『あじさい講座』にて、当院精神科・認知症疾患医療センター センター長の井上 和洋医師が登場し、認知症についての講演を実施しました。



十日えびす大祭 救護所運営

開催日時 2023年1月9日(月)~11日(水) 開催場所 蛭子神社

1月9日~11日の十日えびす大祭に、当院看護師を派遣して参拝者の安心安全を目的とした救護所を運営しました。毎年参加している大事な地域活動ですが、今年も3日間の運営を無事に終えることができました。



神戸百年記念病院
職員の

おすすめ
情報



こだわりの窯で
中村店長が腕を振ります!



味も食感も絶妙!マルゲリータピザ!



モチモチ食感がたまらない!太麺の生パスタ!

パール チッチャ (Bar Ciccía)

毎日食べても飽きないイタリアンの名店!石窯で焼くこだわりのピザは絶品!

神戸百年記念病院からは距離がありますが、当院スタッフが週3で通い詰めるイタリアンの名店を紹介します。三宮駅から新神戸に向かう加納町3丁目交差点のすぐそばにひっそりとたたずむ「パールチッチャ」さん。『毎日食べても飽きないイタリアン』をテーマに、イタリア現地の良さと、日本人の舌に合うような絶妙なハーモニーで、こだわりの逸品たちが提供されます。中村店長は、料理をこよなく愛す素敵な方で、厳選した食材とその調理方法、味付けまで繊細な料理を作っているらしいです。中でも石窯で焼き上げるピザは、当院スタッフ曰く『世界一の美味しさ』と唸るほど。この日は、大定番マルゲリータをオーダー。ピザの外側はパリッと、トマトソースとチーズが一体化した中心側はモチモチ感を少し感じながらトロける絶妙さで、生地の美味しさがストレートに伝わってきます。パスタは太めの生パスタで、種類も豊富。毎日食べたくなること間違いなし!前菜からメインまで、こだわりのイタリアンを楽しんでください!

パール チッチャ (Bar Ciccía)

神戸市中央区加納町2-1-2 日光ビル 2F

電話 078-855-5088

営業時間

LUNCH TIME 12:00~15:00

DINNER TIME 17:00~L.O 22:00

定休日 不定休

JR三ノ宮駅から徒歩7分

ご予約はコチラ▶

